

疫学研究・臨床研究に関する情報公開について

当診療科では、下記の「介入を伴わない後方視的観察研究」を実施しております。「介入を伴わない後方視的観察研究」とは、既に治療が行われた患者様の診療内容について診療録を調査し、記載されている情報を解析して、問題点を明らかにしたり、新しい診断基準や治療法に結び付けたりするものです。

このような観察研究の対象となる患者様の中には、既に転院、転居などで当院には通院していらっしゃらなかったり、また、御不幸にして亡くなられた患者様も含まれ、研究への診療録の情報提供について患者様一人一人に説明をして同意を得ることは現実的には不可能です。そこで、このような研究は「疫学研究に関する倫理指針」(文部科学省・厚生労働省)第 3.1(2)「臨床研究に関する倫理指針」(厚生労働省)第 4.1(2)に基づいて、患者様それぞれから同意をいただくことに代えて、情報を公開することにより実施しております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

研究機関名:豊橋市民病院 血液・腫瘍内科

研究課題名:すべての患者が最適な造血幹細胞移植を受けることができる体制整備のための理論的背景の構築

研究の目的:わが国の造血細胞移植の需要を明らかにし、理論的な背景を整理することで、最適な時期に最適な移植ソースによる造血細胞移植を受けることができるような体制整備を進めることを目的としています。

研究の方法:わが国で1998年1月から2013年3月31日までに同種造血幹細胞移植を受けた患者を対象とし、日本造血細胞移植データセンターのデータベースを用いて、ドナー・ソース別に患者背景を整理し、移植が行われた時期を分析し、最適な時期に最適な代替ソースから移植が行われた症例の割合を推計します。各時点ですべての患者に最適な時期に最適なソースから移植を行うために必要とされたと推計されるドナープールおよび臍帯血ストック数を算出します。これらの経時的な解析結果を元に今後のわが国での同種造血幹細胞移植の需要を推計し、そのために必要なドナープールや臍帯血ストック数を導き出します。

研究の意義:適切な体制整備のための理論的な背景を明らかにすることが可能となります。これにより、よい体制整備が行われることとなり、日本全体の造血細胞移植の治療成績向上に結び付くと考えられます。

個人情報の取り扱い:この研究は日本造血細胞移植データセンターのデータベースを用いて実施します。得られた情報は個人が特定されないように匿名化されており、データは最新の注意を払いパスワード管理された1台のパソコンで管理します。なお、本研究により得られた研究結果は個人が特定されない形で学会発表・論文発表等を行います。

問い合わせ先: 西脇 聡史(豊橋市民病院 血液・腫瘍内科)